

授業づくりを核にした魅力ある学校づくりの推進 〜不登校の未然防止に向けた小中連携の取組を通して〜

今年度の成果

1

野尻 はじめに、取組を通じた今年度の成果についてお聞かせください。

伊豆田 目標の設定や「チーム学校プラン」の様式など、一年間中学校と同じスタンスで取り組んできました。年度末に実施した「子どもの声調査」では、下がった学年もありましたが、多くの学年で「学校が楽しい」「授業がよくわかる」の数値が上がりました。特に、6年生では「授業がよくわかる」が一年間で約20%上がりました。また、中学校の「魅力創生サミット」に参加したり、年度末に児童会主体の子どもたちが言われてうれしい言葉やエピソードを集めて、掲示していく「ONEチーム大作戦」に取り組んだりすることで「絆づくり」の意識が高まってきました。

野尻 「ONEチーム大作戦」の取組は自尊感情や自己肯定感の向上につながる優れた実践と感じました。中学校はいかがでしょうか。

矢部 一年間、不登校生徒を一人も出さず、不登校傾向の生徒も仲間とつながり、持ちこたえることができました。教室全体が不登校傾向の生徒を温かく迎え入れたり、給食を運んであげたりするなど、やわらかい関係が築かれています。先生方も同様で、新規不登校を出さないために生徒を受け入れる姿が見られました。また、本事業を授業づくりと表裏一体で取り組んでいるのも不登校生徒が出なかつた要因と考えています。4人グループの学びの中で、みんなが関わり合い、わかるまで伝え、納得するまで訊く姿は本校の特長の一つです。さらに、生徒たち自身が「魅力創生サミット」の中で「魅力ある学校とはどういう学校か」を考え、全校生徒や教職員に提案をするまでに成長しています。その成果かもしれないが、2年生の年度末の「子どもの声調査」の数値が上がりました。

野尻 今のお話や学校訪問を通して、一人ひとりの生徒が先生方から信頼・尊重されており、不登校の未然防止と学力向上の相乗効果が生まれている印象を強く受けました。それでは、一年間学校の取組を支えていただいた教育委員会としては、いかがでしょうか。

渡辺 一つ目は、魅力ある学校づくりは授業づくりがベースにある、という意識が小・中学校ともに浸透してきてたと感じます。二つ目は、子どもを変えようという意識ではなく、教師が変わろうという意識に先生方がなってきたことです。子どもの声を、思いを聞くという姿が多く見られるようになりました。加えて、悩んでいる先生がいたらみんなで寄り添う姿がよく見られ、先生方の絆が強くなってきたと感じます。

野尻 一月に行われた魅力ある学校づくり授業研究会での先生方の研究協議の様子を拝見して、私も同僚性の高まりを感じたところでした。子どもの姿から真摯に学び合い、明日からの授業づくりにつなげていく先生方の謙虚な姿勢が強く印象に残っています。

出	席	者
伊豆田	文子	舟形町立舟形小学校教諭 生徒指導主任
矢部	暁	舟形町立舟形中学校教諭 生徒指導主事
渡辺	正	舟形町教育委員会学校教育指導主幹
司	会	者
野尻	学	最上教育事務所指導主事

☆日時：令和2年3月25日（水）
☆会場：舟形町中央公民館

今年度の課題

2

野尻 次に、今年度取り組んだ中で課題と感じたことがありましたらお聞かせください。

伊豆田 目標設定が高いということもあるかもしれませんが、「授業がよくわかる」の目標数値が半分の学年で達成できていません。ただ、6年生では、支援員の先生方のバックアップを受けながら、数値が上がってきました。目標達成を目指して中学校と連携しながら、子どもたちにとって「わかる授業」づくりを進めていきたいと思っています。

野尻 6年生や中学校の取組が何かヒントになるかもしれませんが、先生方の目標数値、つまり見積もりと「子どもの声調査」の数値とのずれに着目していくことの大切さを感じたところです。中学校はいかがでしょうか。

矢部 中1ギャップ解消のためにも、小学校からアイデアをいただきながら「のりしろ」づくりをしていかなければと思います。先日、スクールカウンセラーを招いて、小学校6年生のQ・U分析の研修会を行いました。非常に有意義な会になったと思います。各調査の数値などに注目しながら油断しないよう取り組んでいきたいです。

野尻 小中の「のりしろ」づくりについては、3月11日に発行した魅力だより第15号でもお知らせしましたが、今後の「チーム舟形中プラン」にも実態にに応じて枠を追加することをご検討いただければと思います。教育委員会としてはいかがでしょうか。

渡辺 まず、今年度同様に小中の生徒指導の会議を年2回行い、魅力ある学校づくりの話題を入れていく必要があると考えます。そして、小中の引継ぎ会において「のりしろ」の考えを取り入れ、小中連携を充実させていくことが大事であると考えます。最後に、これまで長年にわたって子どもの育ちを見続けてこられた町スクールカウンセラーを研修会で積極的に活用し、保小中の接続や連携を強固にしていきたいと思えます。

野尻 私も今年度町の会議に2回参加させていただきましたが、会議を行い担当者で話し合うことでP・D・C・Aサイクルが回り、好循環が図られたと感じたところです。

来年度に向けて

3

野尻 最後に、来年度に向けて特に力を入れていきたいことをお聞かせください。

伊豆田 先生方の絆が強くなっていると感じています。来年度はさらに何ができるかを共有していきたいと思えます。また、児童会主体の「ONEチーム大作戦」の取組を新たな形で進めていきたいと考えます。子どもたちが自分たちでやり遂げたという感覚をもてるようにしながら、全校で取り組んでいきたいです。

野尻 「ONEチーム大作戦」の取組は中学校でも引き継ぐことで、中1ギャップ解消に効果的と感じたところです。中学校はいかがでしょうか。

矢部 基本的には今年度と変わりません。授業づくりを核に魅力ある学校づくりを進めていきたいと考えます。新入生は小学校では2クラスでしたが、中学校では1クラスになります。また、小学校の2クラスで行ってきた取組を「のりしろ」として引き継ぎながら、仲間づくりや学び合いを進めていきたいと考えます。2月に行った定期テスト後の間違い直しの学び合いの様子を見て、仲間を信頼し、あきらめない姿に感心しました。その姿から生徒たちは自分たちですべてできるのではないかと思えてきました。自分たちで判断し、大人に頼らなくてもできるように。このレベルまで到達すればすごいなと思います。生徒会を巻き込みながら職員と生徒が一緒になっていきたいです。

野尻 生徒が「分らない」と安心して言えるなど、オープンな人間関係が構築されている舟形中学校の「のりしろ」の取組や生徒会主体の「絆づくり」の取組に来年度も期待します。最後に、教育委員会としていかがでしょうか。

渡辺 まず、不登校傾向児童生徒の状況把握に努めたいと思います。来年度は「共に生きる力を持った子どもの育成」を目指し、先生方と子どもたち、そして子ども同士がつながって子ども同士が支援していきことを支援していきたいと考えています。

野尻 「共に」という言葉は、本事業にとってもキーワードになると感じました。本日は、年度末のお忙しい中にも関わらず、ご協力いただきありがとうございます。ございました。



一年間、モデル校区として精力的に取り組んでいただきありがとうございました。



渡辺 正 主幹



矢部 暁 教諭



伊豆田 文子 教諭